

みらい

2020年
夏季号

日本臨床工学技士連盟広報誌

臨床工学技士の2020 Create the future now! CE One Team!

- 臨床工学技士の資質向上
衆議院議員 野田 毅
- 新たな仲間が増えました！
連盟新理事紹介
- コロナの中、学生の教育状況は？
「先生は、今！」「学生は、今！」
- コロナ禍における医工連携
- 連盟コラム 未来への道しるべ
- 広報誌の発刊にあたり
理事長 肥田 泰幸

史上初！厚生労働大臣へ要望書提出

去る、令和2年6月18日。連盟創設以来念願であった厚生労働大臣との面談が実現しました。野田毅「臨床工学技士の資質向上を求める議員連盟」会長をはじめ、多くの国会議員の先生方のご尽力の賜物です。大臣の面会に先立って開催された同議連役員会では、吉田厚生労働省医政局長、佐々木総務課長、佐々木医事課長、加藤医師養成等企画調整室長、文部科学省から丸山高等教育局医学教育課長もご参加いただきました。

このように数多くの先生方から、臨床工学技士の成長に対して手厚いご指導とご支援を頂きました。我々も、このご期待を決して裏切ることが無いよう、切磋琢磨と自己研鑽を行い、それに相応しい技術と知識を身に付け、また団体としてしっかりとまとまって、国民医療に貢献できるよう恩返しして参ります。



↑左より、大隈議員、中西議員、鬼木議員、鬼木議員、三ツ林議員、富岡会長代行、野田会長、加藤厚労大臣

加藤勝信厚生労働大臣への要望

1. 医療機関の医療機器管理部門を取りまとめる責任者として臨床工学技士を置くこと
2. COVID-19流行下における臨床工学技士の研修体制および養成課程への支援について
3. COVID-19の爆発的増加に対する臨床工学技士の確保に関する体制強化について
4. 生命維持管理装置の配置状況等の調査について
5. 医師の働き方改革に伴う臨床工学技士へのタスク・シフト／シェアの推進について

臨床工学技士の資質向上を求める議員連盟会長

衆議院議員 野田 毅

新 新型コロナウイルスが猛威を振るい、未だかつて経験したことのない事態に、世界中が大混乱に陥っている中、医療現場の最前線で活躍する臨床工学技士のみなさまには、過酷な条件下で真摯に正面から立ち向かわれ、心から感謝しております。緊急事態宣言が解除された安倍総理の発言でも、臨床工学技士とはっきり述べられた背景には、政府をはじめ、我々臨床工学技士の資質向上を求める議員連盟の国会議員も、同様な気持ちであることの証です。

緊急事態宣言が解除された後も、わずかな期間をおいて東京アラートが発令されるなど、予断を許さない状況が続いています。再度訪れないとも限らない、第2波、3波に備えて万全の態勢を整えるよう、政府一丸となって整備を進めているところです。また、今回の騒動において、不幸にして職を失うなどされた方々、感染のリスクを負いながら厳しい環境で尽力された医療従事者の方々などへ、経済的な支援も手厚く進めて参ります。

人工呼吸器やECMOなど、高度先進かつ複雑な医療器械の操作や保守管理において、今や臨床工学技士は欠かすことのない存在となっております。チーム医療の一員として、医師や看護師をはじめとする医療スタッフも、専門的な分野においてとても頼りにしています。議連としても今後の臨床工学技士の成長を見守って参りますが、議連も同様に活性化されなければなりません。そのためには、臨床工学技士一人一人の力を結集され、議連と共に今後の未来が創造できることを願っています。



新理事紹介



事務局長 石田 幸広

2014年より大阪府の担当として連盟の活動に参加してきた中で、連盟が臨床工学技士の未来の鍵を握っていることは十分に理解しています。臨床工学技士は、「生命維持管理装置」という文言に縛られているものの、今後、それに囚われることなく医療業界にとってポテンシャルの

高い国家資格になっていくと考えています。だからこそ臨床工学技士連盟の存在は不可欠ですし、もっと広く周知される必要があると思い、連盟の活動に参画してきました。



九州・沖縄担当 大塚 勝二

野田毅連盟議連会長とはご近所付き合いを通じて祖父母の代からの支援者でした。15年程前に友人から誘われて野田先生の後援会の青年部創設メンバーになって約30年ぶりにお会いし、初めて業績と人間的な偉大さを知り感銘しました。又、後援会の事務総長とはプライベートで

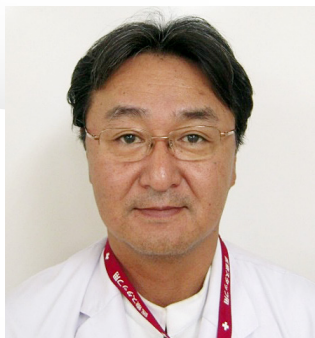
お付き合いさせていただいて、よく食事に誘われた時に『臨床工学技士をメジャーにせんといかん!!』と叱咤・激励を頂いた事が『縁』で、ここまで大きくなったのではと思っています。皆様との『縁』を大事にしながら、絆を深められるように頑張りますので宜しくお願いいたします。



北海道・東北担当 倉重 諭史

北海道では、北海道臨床工学会に初めてブースを出し、勧誘手段はさて置き会員数を大きく伸ばすことが出来ました。継続的な出展と良い場所の確保、効果的な啓蒙でまだまだ増える余地はあると思っています。また、我々の世代はそれぞれの組織において、非常に苦勞して業務開

拓、地位確立に寄与してきました。この苦勞はこれからを担う若い世代にまで負わせるべきではないですし、更に力をつけて安心して働ける職種となることで、より良い人材の獲得、レベルアップにも繋がるのではないかと考えます。



九州・沖縄担当 有田 誠一郎

今までは福岡県の連盟窓口として携わっていましたが、今年から正式に日本臨床工学技士連盟理事として就任いたしました。また、福岡県では、全国で唯一、連盟県支部を立ち上げております。福岡は、麻生太郎副総理や大家敏志参議院議員や自見はなこ参議院議員のお膝元な

ので、色々とお役に立てると思っています。今後ともよろしくお願いいたします。



関東担当 清 正夫

私は、連盟窓口を打診された時、連盟について何もわからず具体的に何をすれば良いかわかりませんでした。その後、連盟ブースを設営したり、政治資金パーティーへ参加するたびに諸先輩方に色々と教わり連盟の重要性を認識するようになりました。担当理事として、連盟会員の声

を聞き、連盟の発展と技士会を支える活動に邁進し、我々の将来のために皆さんと共に一歩でも進めるようにして参りたいと思います。

COVID-19 学生の教育状況は？



「先生は、今！」

2月より新型コロナウイルスCOVID-19の脅威が徐々に蔓延し、私たちの日々の生活が大きく変化する事態となりました。幸いなことに、現在、臨床工学技士養成施設においては、目立った罹患者が発生しておりませんが、学生の登校禁止、授業スケジュールの再編成、オンライン遠隔授業の開始、臨床実習の延期、中止など様々な対応に追われる日々を過ごしております。最近、ようやく非常事態宣言が解除され、大学への登校も緩和されつつあり、3密を避けながら徐々に学生達も日常の生活を取り戻しつつある状況です。

今、教員として最も危惧していることは、学生の就職についてです。日本医師会の横倉義武会長(5/18厚労省内記者会見)のお話にもあったように、新型コロナウイルスCOVID-19によって患者の受診抑制が広がり、多くの病院で経営が悪化しており、今年の医療業界の求人数に少なからず影響をもたらすことが予想されます。近日中に約32兆円規模の新型コロナウイルス対策第2次補正予算案が可決・成立する予定ですが、こ

れによってどの程度医療経済が回復するのか不透明な状況です。また、医療機器メーカーにおいても、新型コロナウイルスCOVID-19の影響によって企業の採用枠が減少することが予想されます。某メーカー担当者のお話では、新型コロナウイルスCOVID-19の影響を受けた観光、外食、自動車関連などの業界から医療業界へ受験者の流入が起こり、昨年の受験者をはるかに凌ぐ競争倍率になっているようです。これらの状況へ対応させるためにも、今年は学生達の就職指導をさらに強化しているところです。

今後も、北九州市で発生している新型コロナウイルスCOVID-19のクラスターのように第2波、第3波が起こることも限りません。臨床現場で働かれている先生方におかれましても慌ただしい日々が続かれることと存じますが、どうかお体には十分お気をつけて臨床業務にご従事ください。

文責 鈴木 理功(帝京大学福岡医療技術学部医療技術学科)

「学生は、今！」

みなさん、こんにちは! 帝京大学の矢津田(ヤツダ)と申します。今日は、新型コロナウイルス感染拡大による学生達の近況について報告したいと思います。

新型コロナウイルス感染拡大の緊急事態宣言の発令により、私が通っている福岡県の養成校では4月上旬より自宅待機となり、SkypeやZoomなどを用いたオンラインによる遠隔授業が開始されました。

学生達が遠隔授業に慣れてないため、ネットワークの状態によって、音声や画面のトラブルが生じるなど慣れない環境に苦戦していました。学生同士で工夫をして改善された部分があったものの、まだまだ全員が円滑に行うには個々の環境整備が必要であると感じました。私は、大学より給付された緊急特別就学

支援金をオンラインでの遠隔授業の環境整備のために使用することで、遠隔授業での不便な点が解消され、より勉強がしやすい環境にすることができました。

新型コロナウイルス感染拡大により、改めて周囲の人への感謝の気持ちや人を救いたいという気持ちを実感することができ、この状況だからこそ得られたものもたくさんありました。まだまだ新型コロナウイルス感染が終息する気配はなく、医療従事者の方々は、自分にも罹患するかもしれないという緊迫した状況の中で、患者さんの治療に懸命に取り組んでおられる姿を目の当たりにして、私自身も早くその一員として一人でも多くの患者さんを救えるように日々の勉強に精進していきたいです。

文責 矢津田 惇一(帝京大学福岡医療技術学部医療技術学科)

何のための 技士会や連盟なのか？

私が技士会の役員になってから20年が過ぎました。「何を思い技士会(連盟)を運営しているのか？」を振り返ってみました。

私は、今の施設に1人目として就職しました。そこでは、臨床工学技士という職種の知名度の少なさや診療報酬の少なさに悔しい思いをしながら、少しでも待遇改善を考えながら、年月を重ねてまいりました。そして、10年、20年と年月が経過するうちに任される仕事が増え人数が増えてきました。そこで今、どういう思いでこれまで歩んできたかを文字にしたいと思います。

- ① 少しでも自分たち待遇が良くなるように
- ② 社会的に認知される資格になるように
- ③ 次の世代の人達に肩身の狭い思いをさせないように

このようなことを思い技士会を運営しているわけです。私だけでなく、その他の役員も同じことを想っているはずです。皆さんも同じでしょうが、医療職の国家ライセンスを取得し、就職したからには、40年近く働くことになります。そうすると、この資格や自分の待遇を少しでも向上するように…と思うのではないのでしょうか？そして、このように思い続けていけば道は開けてくるのだと、少しは実感もできるようになってきました。しかし、まだまだ充分であるとは言えません。少し前までは、各個人が頑張っていれば、きっと社会が認めてくれ、診療報酬も上がるのではないかと考えていました。ところが全然向上しませんでした。そして、連盟が発足し、社会の仕組みを知る機会ができました。診療報酬は、限られた予算の中から優先順位を付けて配分されていたのです。他の団体は、診療報酬を決める場所に国会議員などの自分たちの職域の話をしてくれる人が参画しています。優先順位としても臨床工学技士の要望は、必然的に最下位になってしまうのです。

我々は、やっとの思いで我々の声を代弁してくれる国会議員の団体である「議員連盟」を発足させることが出来まし

た。厳しい社会情勢の中で、我々の職種がどのような方向に進むのかは、きっと皆さんの活動にかかっているのです。

次の世代の人達のために、それぞれの施設の可愛い部下のために、将来、臨床工学技士を目指すかもしれない可愛い息子や娘のために…、「私は臨床工学技士です!」と胸を張って言える、また臨床工学技士という資格を「誰もが知っている」、そのような時代が来ることを目標に技士会運営をしているのです。何事も一足飛びには進みませんが、臨床工学技士が誕生して30年、着実に進歩し、社会的にも認知される医療職団体に進歩してきているのです。よく、「技士会に入るメリット」や、「会費に対する見返り」など、厳しい意見を伺います。その都度、私は「個人で出来ないことを実現する集まり」と返答します。

全ては次の世代の人達のためへの投資なのです。

皆さんも「次世代の人達のために」をスローガンに、一緒に技士会や連盟に参画してみませんか？世代を問わず、やる気のある皆様の参画をお待ちしております。

(広報部 三井 友成)



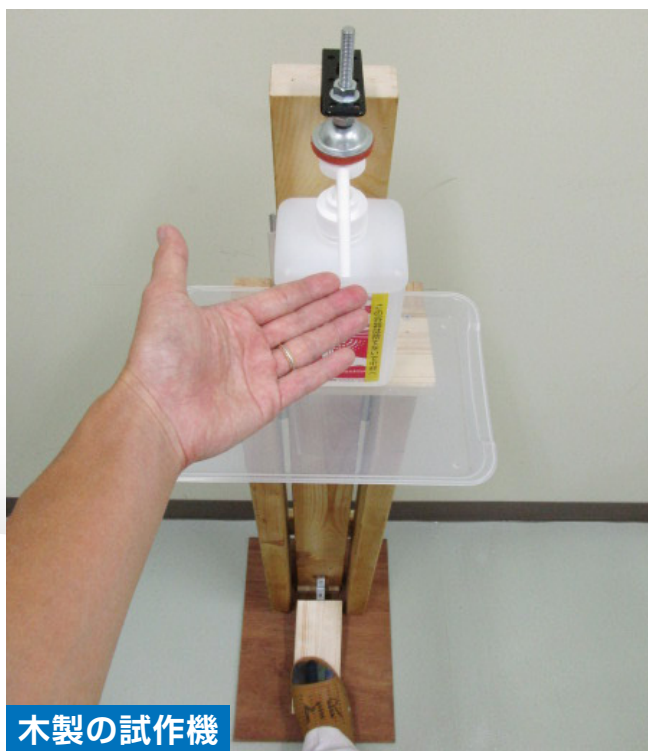
コロナ禍における医工連携

みなさんのご施設では、医薬品や医療材料の不足はありませんか。この度のコロナ禍において、当院ではアルコール消毒薬とフットポンプの不足に悩まされています。4月以降、広島県においても新型コロナウイルスの感染が相次ぎ、感染症病床を有する当院でも受け入れ体制の強化に奔走しました。十分に供給されない手指消毒アルコールは、感染症病棟や有熱者外来での使用を優先するために院内全体の配置を見直しました。その結果、フットポンプの数が圧倒的に不足していることが判明しましたが、時すでに遅し、製薬会社からの購入は不可能な状況でした。

そこで、病院長と感染管理認定看護師よりフットポンプ自作の依頼を受けました。意気揚々と、生体情報モニターの架台、電気メスのフットスイッチや緑縁用のワイヤーなど、院内の廃材を集め製作にかかりましたが、これがなかなか

難しく、さらに供給不足のため毎回異なる規格の手指消毒ボトルが納品される事態となり、設計も満足にできないモノ作りの素人にはお手上げ状態でした。

そこで、以前より『医工連携』で親交のあった株式会社西井製作所（広島県海田町）に相談を持ちかけました。私と西井製作所は、『ゼリーアシストK』という内視鏡向けの潤滑剤自動吐出装置（ゼリーをセンサー感知で手にとる装置）を製品化しており、液体の取り扱いには十分な知識がありました。電話とメールでのやり取りに限られましたが、「どのような規格のボトルでも使用できるよう設計できないか」と話をした3日後には木製の試作機を、その4日後には金属製の2号機、3号機を寄贈してくれました。ボトル位置の上下左右に可動式の金具を付け、依頼したとおり汎用性のある仕様に仕上げてくださいました。



木製の試作機

↑ 下のペダルを踏むとボトル上部の金具が下がり消毒薬が手に取れます

現在、外来スペースや感染症病棟で実際に使用していますが、スタッフの評判はとても良く、「既製品よりも安定感があって良い」「木製も雰囲気が変わり良いね」などの声をもらっています。人工呼吸器の確保や機器消毒の指導だけでなく、『有事の医工連携』を迅速に行い、病院の体制強化に貢献できたことを嬉しく思います。



金属製の2号機、3号機

↑ いろんなサイズのボトルに対応できます

新型コロナウイルスが日本に上陸して以来、各領域を専門とする臨床工学技士の活躍により、今後間違いなく我々に対する注目度は上がると思います。職能を全うしながら、院内のニーズに最速で応える職種でありたいと考えています。

国家公務員共済組合連合会
吉島病院 ME科主任 河原 聖志

CEあやの オススメレシピ

1日一杯お味噌汁を飲みましょう♪

味噌はビタミン豊富。

塩分補給で夏バテ防止。

発酵食品なので腸活にもなります。

材料 約10杯分

- ・味噌 150グラム
- ・乾燥ワカメ 10グラム
- ・切干大根(太目の物推奨) 10グラム

①切干大根をキッチンバサミで1cmくらいに切る

②味噌 ワカメ 切った切干大根を混ぜる。

③冷蔵庫で半日から1日馴染ませる。

これだけ！

大匙一杯をお碗に入れ熱湯150mlを注いで混ぜると味噌汁の出来上がり。

切干大根からよいお出汁がでます。10等分にしてラップに包み味噌玉にしてお弁当に。

回りに花麩やとろろ昆布をまぶしておいても是非お試しください。



連盟コラム

「未来への道しるべ」

去る5月25日(月)、新型コロナウイルス緊急事態宣言が解除され、1か月半に及ぶ自粛生活が徐々に変化している。この間東京都では「新型コロナウイルス感染症を乗り越えるためのロードマップ～「新しい日常」が定着した社会の構築に向けて～」を示し対応し、いくつかのステップも道しるべとして示している。これにより都民は、これまでの生活とはかけ離れた行動制限や行動変容を余儀なくされたが、8割を超える人が約1ヶ月半を自粛対応する事で感染拡大は終息に向かうことが出来た。何故これほど多くの人が行動変容を遂げることが出来たのか考えると、そこにはその先に向かうべき道を示すロードマップと、そこに導く道しるべの存在があるからと考える。

ロードマップとは、「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」と高村光太郎が『道程』の中で詠ったように、道のないところに道を造っていく手法の一つである。そこに道があると多くの人が考え、同じ方向に動く。赤信号、みんなで渡れば怖くない、という冗句があった。むろん原

理的に赤信号なものは、いくらみんなで渡っても青信号にはならない。しかし、広い荒野のようなところを歩いていくためには、みんなで一つの方向を信じて進むことは大切なことではないか。そして、少し進んでみて回りの様子が見えたら、新しいロードマップに改訂していけば良い。

さて、今臨床工学技士の未来へのロードマップはどのようなだろう。先日の首相官邸からの会見での総理大臣の発言で「臨床工学技士」の名が発せられ、コロナ禍で万歳はできないが、心の中でそう叫んだ方も少なくないだろう。この事は、様々なシーンでの臨床工学技士の活躍が評価され、日本臨床工学技士連盟活動によって引かれてきたロードマップが正しい方向を示していることを意味している。6月2日はCEの日。みんなで一つの方向を信じて進めば未来は明るい。今の波をビックウェーブに変えるためにも、皆が行動変容を起こすことに期待したい。

日本臨床工学技士連盟 五条 敏和

広報誌の発刊にあたり

一旦落ち着きを見せたかに思われる新型コロナウイルスも、火種がくすぶるように完全消失とはなりません。テクノロジーの進化が目覚ましい現代であっても、特効薬やワクチンも未だ開発の見通しが厳しく、極めて原始的な接触機会を避けるという手段でしか、感染拡大を防ぐことができない現状です。未だかつて経験したことのない事態に、経済や生命倫理の価値観も、改めて見直す機会を与えられたような気持ちになります。日本臨床工学技士連盟は、政治活動を通じて臨床工学技士の未来を創造し、すべての人の笑顔を創ることを活動理念として掲げています。

この原点に立ち返って、個人でもできること、団体としてまとまるからこそできることを棲み分けながら、一人一人のお力を結集して、この難局を乗り越えて行きましょう。

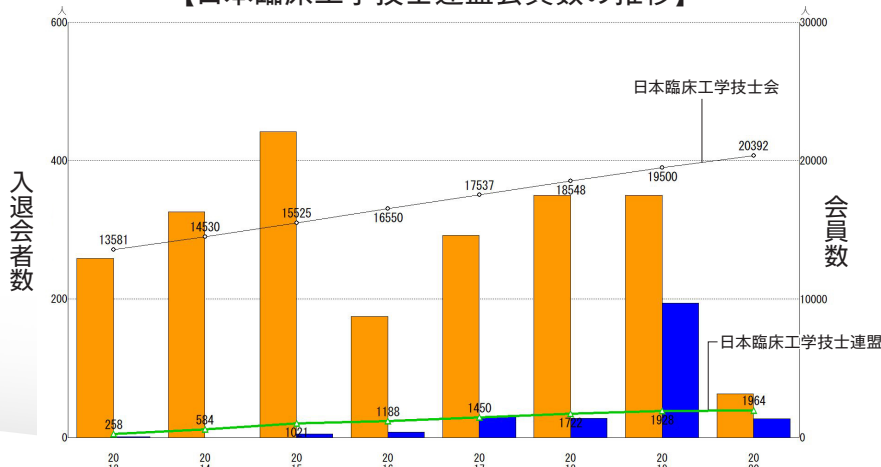
さて、会員の皆様方にはあたたかいご支援を賜っているにも関わらず、目に見える結果をお届けできていない事を申し訳なく思っています。加えて、情報の伝達手段も金銭的な理由から電子的な手法でしかお届けできておらず、この点においても合わせてお詫び申し上げます。

不幸中の幸いという言葉は不適切かもしれませんが、コロナの影響で活動を控えている背景から、若干の費用ねん出が可能となりましたので、印刷と郵送を兼ねた広報誌の発刊に踏み切りました。ご協力頂いている会員の皆様方におかれましては、厳しい台所事情は十分ご理解されているものと思います。本誌を広く活用され、周囲の方に連盟活動のご理解を深めて頂くと共に、一人でも多くの会員増が実現いたしますようご協力をお願い致します。

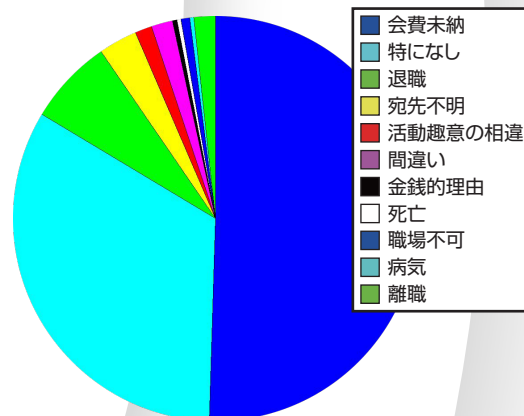
5月25日には、歴史上初めて、総理大臣から直々に臨床工学技士を労うお言葉を頂き、素直に大変嬉しく思います。感染症を含めた医療の最前線で活躍される皆様方の、地道な信頼の積み重ねが結果につながったと信じております。この事実を真摯に受け止め、中断しているタスクシフトの議論が再開された暁には、更なる進化を遂げることができるよう、祈念しております。今後とも日本臨床工学技士連盟をよろしくお願い致します。

理事長 肥田 泰幸

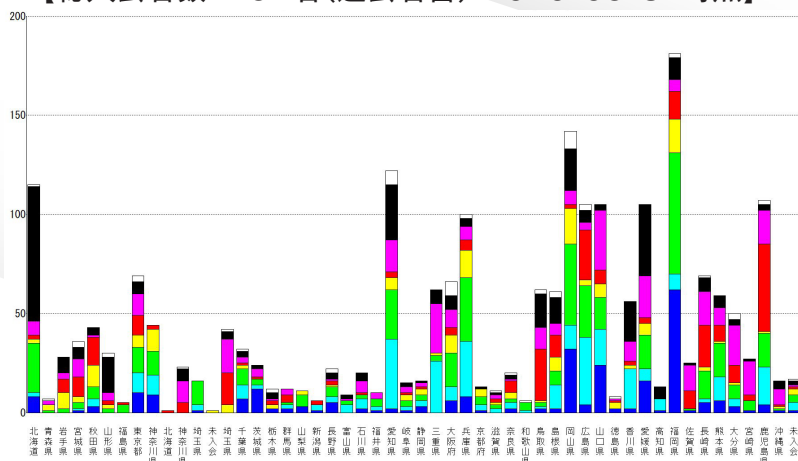
【日本臨床工学技士連盟会員数の推移】



【293名 退会の理由】



【総入会者数2257名(退会者含) 2020/05/31時点】



☆入会案内☆

連盟の活動には多くの方の賛同が必要です。安部首相の緊急事態宣言のお礼の中に「臨床工学技士」の名が出たことは、少しずつではありますが皆様方と我々の活動が実を付けつつある気がいたします。

<http://ce-renmei.gr.jp/>

事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島1丁目3-4KTお茶の水聖橋ビル5F(日本臨床工学技士会)

Tel : 03-5805-2563 Fax : 03-5805-2597 Email : info@ce-renmei.gr.jp